

6/20 いざ九州大会出場へ

熊本県障がい者グラウンド・ゴルフ大会で市のチームが優勝



優勝した阿蘇市Cチームのメンバー

農村公園あびかで6月2日に開かれた「第15回熊本県障がい者グラウンド・ゴルフ大会」(熊本県身体障害者福祉団体連合会主催)で、阿蘇市のチームが見事優勝を飾り、優勝チームのメンバー6名が佐藤市長へ報告に訪れました。

本大会は、団体戦で競う九州大会の予選を兼ねて実施。県内の各郡市代表48チーム、320人が熱戦を繰り広げました。阿蘇市からは4チームが出場。接戦を制した阿蘇市Cチームは、11月に沖縄県宜野湾市で開催される九州大会に出場します。

6/9 高齢者施設で口腔ケア

阿蘇地域歯科保健連絡協議会が口腔ケア講習会



口腔ケアの方法を熱心に受講する施設の従業員

阿蘇地域歯科保健連絡協議会(武藤健史 会長)主催の高齢者の口腔ケアに関する講習会が、「乙姫荘」こひのおか順心館(赤水)で行われました。

6月4日から10日の「歯と口の健康週間」に合わせて阿蘇郡市内で毎年行われている講習会で、阿蘇郡市歯科医師会と歯科衛生士会が、口挿入所者の口腔ケアを担当している従業員を対象に実施。入れ歯の取り扱い方や、口を開けない方への口腔ケアの方法、呑み込みにくい方への食事時の姿勢のアドバイスなどを行い従業員は熱心に聞き入りました。

6/27 短冊にみんなの願いを

YMC A 黒川保育園が道の駅で七夕の飾りつけ



願いを書いた短冊を結び付ける園児ら

道の駅阿蘇でYMC A黒川保育園の年長組の園児約20名が七夕の飾りつけを行いました。

同園では、地域の人たちへの感謝と阿蘇を訪れた人へ七夕飾りでおもてなしをしよう、平成20年から、毎年道の駅へ七夕飾りを展示しています。園児たちは願い事を書いた夢いっぱいの短冊を竹の葉に飾り付けました。七夕飾りには園児たちの願いに加え、熊本地震後は復興への祈りも込められています。

七夕飾りは道の駅の休憩室に7月末まで展示され来場者の目を楽せました。

6/25 被災農地で作付再開

狩尾地区・永水地区の農地で営農再開式典開催



復旧した農地で3年ぶりの田植え

熊本地震で被災した狩尾地区と永水地区の農地が復旧し、地元農家など関係者らが集まり営農再開を祝いました。

阿蘇市の農地は、熊本地震の影響で323haが被災。そのうち特に被害の大きかった同地区の農地63haは県が事業主体となって復旧工事を行い、3年ぶりに作付できるようになりました。

このほか、市が工事を行った農地も復旧し、被災農地全体の6割で営農が再開できる状況に回復しています。残り4割の農地も今年度中の復旧を見込んでいます。



7/2 犯罪のない地域社会に

社会を明るくする運動出発式



阿蘇中部社会を明るくする運動推進委員会のメンバー

犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す「社会を明るくする運動」強調月間に合わせ、市役所で街頭啓発活動の出発式が行われました。この運動は、ことしで68回目を迎えます。

出発式では、保護司会や更生保護女性会などで組織する阿蘇中部社会を明るくする運動推進委員会の相坂治幸委員長による出発のあいさつの後、店舗や学校を広報車で巡回。市内や産山村の街頭啓発活動でチラシや啓発グッズを配布し、安全で安心な暮らしのために理解と協力を呼びかけました。

7/2 音楽通じて国際交流

台湾の小学生が一の宮小学校でふれあい交流会



台湾の伝統楽器「二胡」を体験する児童

台南市（台湾）の小学生4名が一の宮小学校を訪れ、音楽を通じて交流を行いました。

平成28年8月に阿蘇で熊本地震復興応援コンサートを行った台湾の音楽家 王文隆氏が「日本と台湾の子どもたちお互いの文化を学んでほしい」と企画。台南市の児童が台湾の伝統楽器「二胡」を使って4曲を演奏すると、一の宮小学校の6年生が好礼にリコーダーの演奏やけん玉を披露しました。演奏の途中には「二胡」を体験する場面もあり、児童らは見慣れない楽器や文化に触れ交流を深めました。

7/4 地方自治の伸展に功績

故谷崎千浪氏と故村山助雄氏に旭日単光章

地方自治の伸展に功績があったとして、故谷崎千浪氏（坊中）と故村山助雄氏（分一區）がそれぞれ旭日単光章を受章されました。谷崎千浪氏の代理として妻の和子さんと長男の利浩さん、村山助雄氏の代理として妻の芳子さんと次男の茂雄さんが出席し、佐藤市長からそれぞれの遺族に勲記と勲章が伝達されました。

谷崎氏は、昭和61年11月から平成19年2月までの間、5期20年の永きにわたり旧阿蘇町・阿蘇市議会議員を務め、在職中は、旧阿蘇町議会副議長や同町議会建設常任委員会委員長などを歴任。平成2年の水害後、農業と観光の早期復興に向け、関係行政機関への陳情や折衝を行い被災者救済に尽力されました。

村山氏は、昭和62年4月から平成11年4月までの間、3期12年の永きにわたり旧一の宮町議会議員を務め、在職中は、旧一の宮町議会総務常任委員会委員長などを歴任。老朽化した学校給食センター建て替えや、坂梨小学校体育館の建設に尽力されました。



故谷崎千浪氏の妻 和子さん（中央）と長男 利浩さん（左）



故村山助雄氏の妻 芳子さんと（中央）次男 茂雄さん（左）

7/10 有事に備えて連携・協力

市が生協・ナフコと災害や見守りで協定締結



(株)ナフコ 石田卓巳社長 生協くまもと 吉永章理事長

市は生活協同組合くまもと(吉永章 理事長)、株式会社ナフコ(石田卓巳 社長)の2社と「災害時の物資供給」の協定を締結し、市役所で調印式を行いました。

この協定は、災害時にそれぞれの組織が持つている物資を優先的に供給する取り決めで、発災後に不足が予測される水や食料品、生活用品などを確保し、市民の安定した生活を目指すものです。

生活協同組合くまもとは「見守り」についての協定も締結。商品配達時に市民生活の異変の察知や緊急時の通報などを行います。

7/9 ひとりで抱え込まないで

阿蘇中学校の人権集会で「命を大切に語る講話」



自らの経験をもとに命の大切さを語る大和さん

熊本地震で亡くなった大和晃ひかるさんの父 卓也さん(今町)が、阿蘇中学校で開かれた人権集会で、自身の経験をもとに命の大切さについて講話しました。

卓也さんは、熊本地震で行方不明となった晃さんの捜索中に多くの人に支えられたことから、生徒たちに「周りに発信すること」「人と人とのつながり」「家族との会話」の大切さを伝えました。また、自ら命を絶つ子どもたちを悲しみ、「自分一人で抱え込まず、命を大切に人生を楽しんでほしい」と、周りの理解者を頼りにすることを訴えました。

7/12 まちの安全安心に貢献

防犯パトロール隊と大倉幸也氏に防犯功労者表彰



佐藤市長から表彰を受ける大倉氏

阿蘇市防犯パトロール隊(55名)と同隊長の大倉幸也氏(山田区)に防犯功労団体・功労者として阿蘇地区防犯協会連合会会長の佐藤市長から表彰状が手渡されました。

市の防犯パトロール隊は、平成17年2月に結成。県内で初めて青パトによる防犯活動を開始し、地域の安全安心確保に大きく貢献しています。

大倉氏は平成12年7月から阿蘇地区少年補導員として防犯活動を推進し、平成20年4月から市防犯パトロール隊長としても活動しています。

7/11 濡れた服で水害を体験

りんどう保育園で風水害の非常訓練



着衣のままプールを歩いて動きにくさを体感

りんどう保育園で、風水害時に濡れた服での避難を想定した訓練が行われました。

りんどう保育園では、毎月1回非常訓練を行っており、平成24年の九州北部豪雨以降は、水害の恐ろしさを当時の写真などを使って園児たちに伝えていきます。今回の訓練は、服を着た状態での動きにくさを知ってもらうため、園児は着衣のままプールに入りました。消防署員の指導でプール内を反時計回りに歩いて水流を作ると、園児たちは足を取られるような水の勢いを身をもって体験しました。